

参加無料
要事前登録



現代小説の内外から 見る翻訳者の肖像

2021年度日本英文学会北海道支部道央ブロックイベント



講師 藤井光氏（東京大学）



日時 2022年1月24日（月）18時30分から20時10分



場所 オンライン（Zoom）



対象 翻訳ワークショップ： 学部学生・大学院生

参観： 大学教員・一般



事前参加登録（定員90名）

翻訳ワークショップ：<https://forms.gle/69uwHn2Yb4Q7Zou38>

*締切 12月13日（月）

参観：<https://forms.gle/u8DxkRo9WQrth7xM8>

*締切 1月17日（月）

- 翻訳ワークショップ参加者には、事前に提示される翻訳課題を期日までに提出していただきます（詳細はご登録いただいた方に別途ご連絡いたします）。
- 1月21日（金）に、ご登録いただいたメールアドレス宛に当日のZoom URL・資料をお送りします。

翻訳ワークショップ参加登録



参観参加登録



お問い合わせ 日本英文学会北海道支部道央ブロック 金井彩香

do02021elsj@gmail.com

講演・翻訳ワークショップ

概要

この講演の目的は、現代小説をめぐる「翻訳者」という存在を複数の角度から検討することです。まずは、小説の登場人物としての「翻訳者」がどう描かれるのかの実例をいくつか紹介し、物語と翻訳がどのような関係にあるのかを考察します。ついで、英語文学の日本語訳、日本文学の英語訳という実践例から、小説の外部にいる翻訳者はどのような形で物語に関わっているのかを考えます。そうした姿勢や手法を参考にしながら、実際の翻訳課題をめぐるやり取りを行っていきたいと考えています。

構成

- Rabih Alameddine、C Pam Zhang、Octavia Butler、Gina Apostolなどの小説における「翻訳者」の姿を紹介
- ジュンパ・ラヒリの小川訳、あるいは吉本ばななのBackus訳などから、翻訳とはどのような作業（あるいは介入）が行われるのかを検討
- 課題テキスト：Zhangの長編の冒頭の翻訳課題のフィードバック

藤井光 FUJII Hikaru

略歴

1980年大阪生まれ。北海道大学文学部、北海道大学大学院文学研究科（博士前期・後期課程修了）、日本学術振興会特別研究員、同志社大学文学部英文学科を経て、現在は東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門はアメリカを含む現代英語圏小説の研究とその翻訳。グローバル化が生み出した21世紀の英語文学を、経済や歴史や「翻訳」概念との関わりから研究中。著書に『ターミナルから荒地へ 「アメリカ」なき時代のアメリカ文学』、訳書にサルバドール・プラセンシア『紙の民』（2011年）、モーシム・ハミッド『西への出口』（2019年）、デニス・ジョンソン『海の乙女の惜しみなさ』（2019年）、ニック・ドルナソ『サブリーナ』（2019年）、アルフィアン・サアット『マレー素描集』（2021年）など。2015年、北海道大学文学部同窓会「楡文賞」受賞。テア・オブレヒト『タイガーズ・ワイフ』が第10回（2013年）本屋大賞翻訳小説部門第1位、アンソニー・ドーア『すべての見えない光』が第7回（2016年）Twitter文学賞海外部門第1位・第3回（2017年）日本翻訳大賞に選ばれる。